巣南中学校では生徒に，『自ら求め 考え 判断し 行動する力』を育むことを最上位の目標としています。この文言を最上位の目標として掲げることは３年目となります。

現在の中学３年生は，今から四半世紀後の 2050 年に 41 歳となります。今の感覚で考えると，働き盛りまっただ中であり，社会の中核を担うような年齢です。私たちは生徒がその頃，「人生を豊かに生きていて欲しい」「持続可能な社会を創造する大人の一人であって欲しい」と願っています。そのための土台となる力が，『自ら求め 考え 判断し 行動する力』だと捉えています。

さて，私たちは現在，様々な社会課題を抱えながら生活をしています。例えば，「人口減少と少子高齢化」や「自然災害の多発化と激甚化」，「都市への一極集中と地方の過疎化」や「経済格差と子どもの貧困」など，少し考えるだけでも４つも５つも思い浮かびます。このような社会課題を未来の日本は果たして解決できているのだろうかと考え，様々な文献を読んでいる時に「国立研究開発法人 科学技術振興機構(以下「JST」)」の次のレポートを知りました。

国立研究開発法人　科学技術振興機構(JST)内
「課題解決の対話から 2050 年に向けてつむぐ『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ」
https://www.jst.go.jp/sis/co-creation/items/create_future2021.pdf

このレポートは，JST「科学と社会」推進部が社会課題解決に取り組んでいる研究者や企業，市民などと議論を重ねて作成されました。

レポート内では２つの未来が示されています（左図参照）。１つは，このまま進めば否応なく訪れる「来るだろう未来」，もう１つは，こういう未来を迎えたいという思いをこめた「つくりたい未来」です。

「出典：2021 年３月 科学技術振興機構（JST）
課題解決の対話から 2050 年に向けてつむぐ
『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ』P4」

「つくりたい未来」は，ただ待っていれば誰かがつくってくれるのかというと，そうではありません。その時代を生きる者一人ひとりが，当事者意識をもって課題解決に真正面から向き合い，強い意志をもって行動することで成し遂げられることだと考えます。そしてそのような気質は一朝一夕につくられるものでもありません。ですから，生徒には巣南中学校で生活する３年間で，徹底的に『自ら求め 考え 判断し 行動する』経験を積んでもらいたいのです。

令和６年度は昨年度の課題を踏まえ，この力を育むために，「自らを律すること」「自ら学ぶこと」「自ら動くこと」それぞれに 2～3 つの重点を定めました（右図参照）。

私たちを悩ませていた新型コロナウイルス感染症による行動制限もなくなりました。ですから，自分の興味や関心のあることに思い切り挑戦してもらいたい。仲間との対話や協働を通して学校生活を心から楽しんでもらいたい。そんな生徒の姿を，私たち巣南中学校教職員は全力で応援します。

令和６年４月１日
瑞穂市立巣南中学校 校長 真鍋健一